

## 2018 年度実施「学生による授業評価アンケート」自由記述欄の意見・質問等への回答 (日本文化学科)

日本文化学科の学生の皆さん、「授業評価アンケート」へのご協力をありがとうございます。以下では、日本文化学科の授業やカリキュラムに関する皆様から意見・要望を中心に回答いたします。

なお、施設に関するもの（駐車場、クーラー等）、授業以外の大学サービスに関するもの（図書館、事務窓口対応、施設開放時間等）に対する要望については、大学の各機関からの回答がありますので、そちらをご確認ください。

### 1. 授業アンケートについて

「アンケートをしてくれない」「アンケート中に教室を出ない・内容を確認する」「学科の半ばに実施してほしい」などの指摘・要望がありました。

授業についてのアンケートは教員全員が実施するものです。ただし、授業の進行上の都合によって実施が困難な場合もあり、全ての科目でアンケートが行われているわけではありません。授業への要望については、授業評価アンケートだけでなく、学科長やアカデミックアドバイザー、学年主任を通して対応することも可能です。また、他の科目で実施されるアンケートの「自由記述欄」に、具体的に科目名を挙げて改善点を記載してもらえれば、学科として対応していきます。

不適切なアンケートの実施方法について、非常勤の先生も含めた学科全体で、今一度適切なアンケート方法を周知していきます。

アンケートの実施時期について、アンケートには授業の受講によって得られた「学び」について問う設問が設けられており、これは授業期間の途中で回答してもらうことのできない内容です。また、声の大きさや板書の方法など、授業の運営方法についての要望は、授業後に先生に直接お願いする、学科長・アカデミックアドバイザーに相談するなどして下さい。

### 2. シラバス・時間割等について

「1年間の登録単位の上限を上げてほしい」「必修科目や選択科目の曜日をまとめてほしい」「金の1:00からの講演会や講座の説明会がよくかぶるので、変更してほしい。」などの要望がありました。

取得単位の上限について、文科省や基準協会が定めた大学設置基準に基づいて設定されています。また、登録単位数が増えるほど各授業への取り組みがおろそかになる恐れもあります。あまり焦らず、1つ1つの科目を大切に学修して欲しいと思います。なお、集中講義科目、健康科目群などの上限に含まれない科目もありますので、時間割を工夫してみてください。

時間割の組み方について、日本文化学科では各学年の必修科目・選択科目が重ならないようにするなど、工夫、配慮して時間割を組んでいます。よって、ご要望のように必修科目・選択科目を1、2つの曜日にまとめることはできません。なお、「金の1:00からの～」について、「講演会や講座の説明会」が具体的にどのようなものなのか分からないのですが、毎週行われるものではないと思いますので、各自で工夫して下さい。また、科目の担当教員に相談してみるのも良いでしょう。

### 3. 資格科目について

「図書館の資格科目をもっと取りやすくしてほしい（後期に集中、他の科目との両立が難しい）」「日文のキャリア助成金の資格の幅を広げてほしい」などの要望がありました。

図書館の資格科目について、日文の司書課程では文科省令に基づくカリキュラムが設けられており、資格科目の履修順序もきちんと定められています。そのため学年によっては、後期に多くの資格科目を受講することになっているのだと思います。慌てず、卒業までに履修するという気持ちで計画を立てて下さい。なお、司書課程では毎年11月頃に次年度の時間割を配布して受講に問題が生じないかを確認していますので、そのタイミングで司書課程主任に相談してみると良いでしょう。

キャリア助成金について、本学のキャリアサポート支援制度は各学科の専門科目に関わりの深い資格取得に対する保証であり、授業を受け、単位を取ることで資格・免許を取得できることに対する保証とは別のものと考えする必要があります。

### 4. 授業の運営方法について

「私語をちゃんと注意してほしい」「出席カード目当ての人がずっとおしゃべりをしてうるさい」「コメントシートを配るのが遅すぎる（次の授業に遅刻することがある）」「パワーポイントとレジユメに違いがあって穴埋めできない」「課題が多すぎて他の授業と両立できない」「期末レポート課題はできる限り早い時期に提示してほしい（試験などとの重複が多いため）」「ディスカッションを増やしてほしい」などの指摘、要望がありました。

私語は他の受講者の集中を妨げるものであり、きちんと対応しなくてはなりません。またコメントシート配布についても、次の授業に影響しないよう配慮する必要があると考えます。適切な対応の必要性を学科全体で共有していきます。出席確認の方法については、大教室での講義など、担当教員が一人でチェックすることが難しい状況もあります。今後は、TA・SAやアクションペーパーの活用など、受講生の授業への取り組みを加味した出席確認の工夫を行うよう、教員間で周知していきたいと思えます。

講義内容に関する指摘、要望について、多くの教員は常に、学修効果の高い講義方法や内容を考えて、講義を進めるよう努めています。しかし残念なことに、そのことが受講生にうまく伝わっていない、受講生の状況を鑑みない内容になっている等のケースもあるかもしれません。教員間で問題意識を共有し、より良い講義を提供できるよう努めていきま

す。

## 5. その他

「日文のパソコン室を開けて、使えるようにしてほしい」「教員が無許可で SNS 等に写真をあげることをやめてほしい」などの要望がありました。

学科のパソコン室（5-209）は日本文化学科の学生全員に提供されている場所であり、その使用においては、飲食禁止、私物を置かない等のルールが定められています。しかし残念ながら、そのルールが守られていない状況が時折見受けられます。その場合、改善を促すために一定期間施設することになっているのですが、上記の記述はその期間に出されたものでしょう。使用の際はルールをきちんと守るよう、1人1人が心がけてください。

SNS等の写真について、日本文化学科では学科の情報発信の手段の1つとしてSNSを活用しています。授業風景などの撮影においては、受講生の顔がなるべく写らないように配慮し、SNSへの掲載の可否を確認するようにはしておりますが、それが十分に行われなかったケースもあったのかもしれませんが、今後は、ご指摘のようなことがないように、学科教員間で情報共有します。

授業評価アンケートを通して、学生の皆さんの様々な意見、要望を知ることができました。ありがとうございます。講義に関する厳しい意見もありましたが、一方で「次の年次でも同じような講義が受けたい」「先生の授業をもっと受けてみたい」など、講義が充実したものであったことを窺わせるコメントも見受けられました。満足度の高い講義を提供できているということは、学科として大変喜ばしいことです。今後もよりよい学習環境、質の高い授業の提供を目指していきたいと思えます。みなさんの大学生活が充実した実りあるものとなることを、日本文化学科教員一同、心から願っています。